

令和2年度第2回渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 会議録

1 日時

令和2年12月28日（月） 書面開催

2 出席者

渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会 構成員

3 議事

(1) 渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会要綱の変更について

- ・渥美半島野生イノシシ捕獲根絶協議会要綱の一部改正（案）について、全会一致で承認された。

(2) イノシシ捕獲に係る取組状況について

- ・渥美半島での死亡イノシシは、多く報告されているのか。渥美半島の個体数が減少傾向にあることについて、その根拠はあるか。

→ 今年度の夏頃から、死亡イノシシをよく見かけるとの情報が市役所へ届いている。なお、これまでに野生イノシシで豚熱の陽性が確認された他の地域でも、陽性が確認されるのと同時期に死亡イノシシが多く確認されている。

- ・成獣捕獲強化のため、母子で行動する時期（5～9月）に限定し、歯列調査で2歳以上と判定された雌個体に対する報奨金を増額してはどうか。

→ 現在は歯列による年齢確認を統計のために簡易的に行っているが、これを補助制度に組み込むと、確実な確認が必要となること（例えば歯列で成獣と確認できない場合は対象とできない）などから、制度化は容易ではないと思われる。成獣捕獲をいかに促していくかの検討に当たっての提案として承る。

- ・田原市ではくくりわなによる捕獲が少ないように見受けられるが、理由はあるか。

→ 田原市で最も野生イノシシの生息が多く見られる大山周辺の地域は「特定猟具使用禁止区域（田原西部）」として、くくりわなの使用が禁止されている。

今回の捕獲強化により、くくりわなを使用した捕獲も許可されるようになったが、現在もはこわなによる捕獲が主となっているためと考えられる。

- ・近隣の豊川市、新城市での捕獲状況も可能であれば知りたい。

→ 下表のとおり。両市では昨年度末から今年度にかけて大幅な減少が見られる。

年度市	R 1 (H31)	R 2 (12月末現在)	前年同期比
豊橋市	268 頭	152 頭	70.4%
田原市	497 頭	243 頭	57.0%
豊川市	473 頭	94 頭	28.1%

新城市	1,005 頭	214 頭	26.2%
全 県	6,652 頭	4,270 頭	80.4%

- ・ 捕獲数の減少が「陽性確認地域における生息数の減少」に起因することは十分に考えられる。ただし、生息数の「回復」の可能性には十分に留意する必要がある。
 - ・ 捕獲個体の「処分しやすさ」は、捕獲努力量の維持につながるため、集団埋設の検討は是非とも推進されたい。
- 豊橋市内で実施している集団埋設は、埋設による生活環境の影響や他の動物による個体の掘り起こしを主に調査する期限付きの実証検査のため、継続的な捕獲個体の処分については、その方策の検討等、両市と協力して対応する。

(3) 渥美半島地区における野性イノシシ豚熱検査結果とワクチン散布について

- ・ 資料3 地図の緑口表示の抗体保有イノシシは捕獲後に提供された血液を検査したもののか。

今後、記者発表にて、抗体の有無に関する記載の予定はあるか。

- 抗体の検査は、捕獲イノシシの血液または死亡イノシシの扁桃で実施している。この結果を記者発表で公表することは考えていないが、経口ワクチン散布の結果として、地区（散布エリア）毎の抗体保有（陽性）率についてはすでに公表しており、今後も同様に扱う予定。

- ・ 豚熱発生前後の岐阜市金華山におけるイノシシ個体群の動向に関する文献（別添1）のとおり、豚熱による個体数減少の可能性は十分に想定されるが、回復の可能性を念頭に置く必要がある。

- 愛知県でも、初期に野生イノシシの豚熱が確認され、個体数が減少した（と考えられる）地域において、回復（捕獲数の急増）が見られており、今後渥美半島地域においても、個体数が一旦減少した後、同様に急増する可能性が十分にあると考えられる。引き続き、注視していく。

(4) 移動防止柵の設置状況及び生息状況調査について

- ・ 生息密度が特に高いエリアに特徴的な環境条件はあるか。

- 環境条件としては地形や植生の差、また、イノシシの侵入（生息）時期の差やわなの設置数など捕獲圧の違い等により生息密度に差が生じていると考えられるが、明らかな要因等の解析はできていない。

移動防止柵の設置により、今後変化が現れるのではないかと考えられる。

(5) 今後の捕獲手法の検討について

- ・ 田原市の地域との連携について地区ごとに体制づくりを検討してはどうか。

- 狩猟免許の取得や技術の会得等が必要となることから、地域の方の早急な捕獲活動への参加は困難と考えるが、生息環境の管理や見回り等の捕獲活動の補助、捕獲

強化・生息域縮小に係る雰囲気醸成などに資する体制づくりができるとういと思
われる。

これらについて、ぜひ御意見やアイデアをいただきたい。

- ・ 根絶の目標に対して、実現可能性を踏まえた検討は必要である。
- 今年度の生息状況調査結果を踏まえ、実現可能性について検討することとしてお
り、次回の協議会において、一旦何らかの形で示したい。
- ・ 来年度の目標 900 頭は可能か疑問に思う。
- 両市の被害防止計画における有害捕獲の予定頭数と、県で実施予定の指定管理鳥
獣捕獲等事業の予定と数の合計値を目標としているが、豚熱の影響もあり生息頭数
の減少が予測され、達成困難との御指摘はもっともなものと思われる。
しかし、前述の通り、生息頭数が急回復する可能性もあることや、根絶の（状態
に近づける）ためには多数の捕獲が必要であることから、現時点では高い捕獲目標
頭数を掲げている。

○ その他

- ・ 長崎県対馬市の対馬歴史民俗資料館の資料を提供する。（別添2）時代が異なり、
画期的な捕獲技術が開発されていない時代の事例だが参考にされたい。
- 参考にさせていただきます。
置かれた状況は異なる面も多くありますが、イノシシを地域から根絶させること
ができた貴重な成功事例において、死活問題と捉えた官民の総力を挙げての取組
で、いかほどの人的・時間的な労力が必要であったか、また、戦略的・計画的に取
り組む必要があったかがよくわかりました。
現代の渥美半島地域に置き換えて考えても、技術や情報面などでは優位性を持つ
一方で、体制づくりや地域全体で全力を挙げて取り組むことの困難さは極めて大き
いと感じました。
今後は、協議会各位との連携を深め、どの状態まで、いかに取り組んでいくか議
論し、できる限りのことを実践していきたいと思ひます。